

(第 II 部) 本年度の注目研究

1) 首都圏を中心としたレジリエンス総合力向上プロジェクト ～MOWLAS(陸海統合観測網)との連携による企業・組織力の向上～ 平田 直 (プロジェクト総括)



本年度の注目研究として、平田プロジェクト総括から「MOWLAS (陸海統合観測網) との連携による企業・組織力の向上」と題した発表がありました。平田総括は、「今日は 3 つの話をしていきます。1 つ目は、MOWLAS (陸海統合観測網) という防災科学技術研究所 (防災科研) が運用している観測網の話です。2 つ目は、MeSO-net(首都圏地震観測網)について、そして最後に、これらを使うとどのように良いことがあるのかという、地下の研究から地上の人々の防災力について話したい」と述べました。

MOWLAS は、1995 年に阪神・淡路大震災が起きた直後から防災科研が作って運用している Hi-net という陸上の約 800 点の観測網と、東日本大震災後に海域に防災科研が設置して運用している S-net という観測網と、Hi-net のところにある KiK-net という強震観測網、F-net (広域帯地震観測網)、V-net (火山観測網)、K-NET (強震観測網) という日本中にあった観測網全てを統合したものです。平田総括は「MOWLAS の利点は、大きな地震が起きたときに、強い揺れや高い津波を早く検知して、安全に列車のスピードを遅くしたり、工場の操業を制御したりすることができること。揺れに対応する仕組みでは、自動的に制御する仕組みができていくということが重要。一方、津波については、自動的に人々が避難す

るということはないので、人々の避難行動を促すための情報をうまく伝えるということが非常に重要になる」と説明しています。

ただ、MOWLASでも、首都圏には観測点が5カ所しかありませんでした。それを補完するために作ったのが、地震観測網「MeSO-net」です。「MeSO-net」は、首都圏に約300点の観測点を持ちます。しかしそれでも、まだ観測点には3キロメートルほどの間隔があいています。地下のことを調べるにはそれで良いのですが、地表の揺れをモニターするためには、少なくとも250メートルメッシュに1観測点が必要です。さらに建物の被害を観測しようとする、10メートルメッシュに1観測点が必要になります。

平田総括は最後に、「重要なことは、地震学の地下の視点から、地上と人々に視点を移すこと。そのためには非常に稠密な観測網が必要となる。10メートルと言ったが、まずは250メートル間隔を目指そうと思っているので、皆さまのお力添えを頂きたいと思っている。私たちはデータ利活用協議会（デ活）によって、共通価値の創出（creating shared value : CSV）を目指していきたい」と、デ活への参加を呼びかけました。

The slide features a dark blue background with white text. At the top, there are logos for 'for R 首都圏レジリエンスプロジェクト Tokyo Metropolitan Resilience Project', 'NIED National Institute for Earthquake and Disaster Resilience Promotion', 'Data use and application council for Resilience Tokyo Metropolitan Resilience Project - 2017', and 'デ活 データ活用協議会 Data use and application council for Resilience'. The MOWLAS logo is on the left, and the DeKatsu logo is on the right. The title 'まとめ' (Summary) is centered. The main content consists of four numbered points. The first point is '地震災害を軽減するためのMOWLAS(陸海統合観測網)'. The second point is 'さらに、MeSO-netを運用して、首都圏のレジリエンス向上を目指している。'. The third point is '防災のためには、視点を「地下から、地上、人々」に移していく必要がある。' followed by a sub-point '→ 高密度観測が必要:まず、250 m間隔'. The fourth point is '「デ活」(データ利活用協議会)によって、「共通価値の創出」(CSV)を目指す。'. At the bottom left, it says '2018/3/1' and at the bottom center, '経団連会館2階 国際会議場'.

for R 首都圏レジリエンスプロジェクト
Tokyo Metropolitan Resilience Project

NIED
National Institute for Earthquake and Disaster Resilience Promotion

Data use and application council for Resilience
Tokyo Metropolitan Resilience Project - 2017

デ活
データ活用協議会
Data use and application council for Resilience

MOWLAS
Monitoring of Waves on Land and Seafloor

まとめ

1. 地震災害を軽減するためのMOWLAS(陸海統合観測網)
2. さらに、MeSO-netを運用して、首都圏のレジリエンス向上を目指している。
3. 防災のためには、視点を「地下から、地上、人々」に移していく必要がある。
→ 高密度観測が必要:まず、250 m間隔
4. 「デ活」(データ利活用協議会)によって、「共通価値の創出」(CSV)を目指す。

2018/3/1 経団連会館2階 国際会議場